

9 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「やあ、きみは黄色だね。きたない色だ。」
と緑のかえるがいました。

「きみは緑だね。きみはじぶんを美しいと思っている
のかね。」

と黄色のかえるがいました。

こんなふうに話しあっていると、よいことは起こり
ません。二ひきのかえるはどうとうけんかをはじめまし
た。(略)

するとそのとき、寒い風がふいてきました。二ひきの
かえるは、もうすぐ冬のやってくることをおもいだしま
した。かえるたちは土の中にもぐって寒い冬をこさねば
ならないのです。

「春になったら、このけんかの勝負をつける。」
といって、緑のかえるは土にもぐりました。

「いまいったことをわすれるな。」

といって、黄色のかえるももぐりこみました。
寒い冬がやってきました。かえるたちのもぐっている
土の上に、びゅうびゅうと北風がふいたり、霜柱が立つ
たりしました。

そしてそれから、春がめぐってきました。土の中にね
むっていたかえるたちは、せなかの上の土があたたく
なってきたのでわかりました。

さいしよに、緑のかえるが目をさしました。土の上
に出てみました。まだほかのかえるは出ていません。

「おいおい、おきたまえ。もう春だぞ。」
と土の中にむかってよびました。

すると、黄色のかえるが、
「やれやれ、春になったか。」
といって、土から出てきました。

「去年のけんか、わすれたか。」
と緑のかえるがいました。

「待て待て。からだの土をあらいいおとしてからにしよう
ぜ。」

と黄色のかえるがいました。

二ひきのかえるは、からだから泥土をおとすために、
池のほうにいきました。池には新しくわきでて、ラムネ
のようにすがすがしい水がいっぱいにたたえられてあ
りました。そのなかへかえるたちは、とぶんとぶんと
びこみました。

からだをあらってから緑のかえるが目をぱちくりさ
せて、

「やあ、きみの黄色は美しい。」
といました。

「そういえば、きみの緑だつてすばらしいよ。」
と黄色のかえるがいました。

そこで二ひきのかえるは、
「もうけんかはよそう。」
といいあいました。

よくねむったあとでは、人間でもかえるでも、きげん
がよくなるものであります。

【新美南吉「二ひきの蛙」】

物語文 場面・心情

問1

春になって、緑のかえると黄色のかえるが最初に言った
言葉を書き抜きなさい。

緑のかえる

黄色のかえる

問2

二ひきのかえるは、どうして「もうけんかはよそう。」
といったのでしょうか。正しいものを選びなさい。

ア けんかをするのを忘れてしまったから。

イ 冬眠から起きたばかりで、元気が出なかったから。

ウ 池の水がラムネのようにすがすがしかったから。

エ ぐっすり眠って、きげんが良くなったから。

場面

物語の中にあるいくつかのまとまり。時
間や場所、登場人物の行動などでひとまと
まりになっていることが多い。

心情

登場人物が、心の中で思っていることや
感情のこと。直接書かれているだけでなく、
行動や会話、情景にも表れることもある。

9 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「やあ、きみは黄色だね。きたない色だ。」

と緑のかえるがいました。

「きみは緑だね。きみはじぶんを美しいと思っているのかね。」

と黄色のかえるがいました。

こんなふうに話しあっていると、よいことは起こりません。二ひきのかえるはどうとうけんかをはじめました。(略)

するとそのとき、寒い風がふいてきました。二ひきのかえるは、もうすぐ冬のやってくることをおもいだしました。かえるたちは土の中にもぐって寒い冬をこさねばならないのです。

「春になったら、このけんかの勝負をつける。」
「いまって、緑のかえるは土にもぐりました。」

「いまって、黄色のかえるももぐりこみました。」

寒い冬がやってきました。かえるたちのもぐっている土の上に、びゅうびゅうと北風がふいたり、霜柱が立ったりしました。

そしてそれから、春がめぐってきました。土の中にねむっていたかえるたちは、せなかの上の土があたたくなってきたのでわかりました。

さいしよに、緑のかえるが目をさしました。土の上に出てみました。まだほかのかえるは出ていません。

「おいおい、おきたまえ。もう春だぞ。」
と土の中にむかってよびました。

すると、黄色のかえるが、

「やれやれ、春になったか。」

「去年のけんか、わすれたか。」

と緑のかえるがいました。

「待て待て。からだの土をあらいいおとしてからにしようぜ。」

と黄色のかえるがいました。

二ひきのかえるは、からだから泥土をおとすために、池のほうにいきました。池には新しくわきで、ラムネのようにすがすがしい水がいっぱいにたたえられてありました。そのなかへかえるたちは、とぶんとぶんととびこみました。

からだをあらってから緑のかえるが目をぱちくりさせて、

「やあ、きみの黄色は美しい。」

「いいました。」

「そういえば、きみの緑だつてすばらしいよ。」

と黄色のかえるがいました。

そこで二ひきのかえるは、

「もうけんかはよそう。」

「いいあいました。」

よくねむったあとでは、人間でもかえるでも、きげんがよくなるものであります。

【新美南吉「二ひきの蛙」】

物語文 場面・心情

問1

春になつて、緑のかえると黄色のかえるが最初に言った言葉を書き抜きなさい。

緑のかえる

おいおい、おきたまえ。もう春だぞ。

黄色のかえる

やれやれ、春になったか。

問2

二ひきのかえるは、どうして「もうけんかはよそう。」
といったのでしょうか。正しいものを選びなさい。

ア けんかをするのを忘れてしまったから。

イ 冬眠から起きたばかりで、元気が出なかったから。

ウ 池の水がラムネのようにすがすがしかったから。

エ ぐつすり眠って、きげんが良くなったから。

エ